

# 33号

題字 三島小  
2年 大原寿洋



## 岡崎市特殊教育推進協議会

平成7年12月15日発行



### どんぐりのいたずら

竜海中学校長

小久保 良

その日は「おかざきっ子展」の準備の日でした。早朝からトラックで作品を運び、地域文化広場での組み立てや飾り付けが始まりました。子どもたちも先生も力を合わせて、針金で作品を結び付けたり、ダンボールから彫刻物を取り出しては展示したりしながら、汗を流しての作業でした……。

「みんな、休憩ヨ。こっちに来て……ハイ、あげる……。」  
「ヤッター……ありがとう……おいしいなア……。」

子どもたちは、ジュースを飲みながら、嬉しそうにチョコボールを頬張っていました。それからしばらくたってからの事です。

「先生ッ。チョコボール、あげる!!」

「ありがとう。いただくわ……ガリッ……なに、これ?」

「ハッハッハー、ひかかったッ——。先生がひかかったー。」

「コラッ!!……よくもどんぐりを……!!」逃げる子ども、追い駆ける先生。和やかで仲良く、穏やかに打ち解け合って戯れる子どもと教師。そこには、楽しい雰囲気がいっぱい溢れていました。

破顔一笑の中にある子どもと教師の阿吽の息は、まさしく、惻隱の心を育てており、今こそ大切にすべきと、強く思うのです。

「二十四の瞳」で、子どもたちが大石先生にいたずらしてから、次第に恩愛の絆が強くなっていった、あの「ふれあい」を再現すべく、我々教師は、教育活動の中で改めて自分を見直していく必要があると考えさせられるのです。

子どもと親の集い

# うんどうかい

## 第 13 回



おみやげもらおう



輪らって帰ろう

さる九月十二日、「第十三回子どもと親の集い運動会」が岡崎市総合体育館にて盛大に行われまし  
た。児童生徒とその保護者、担任  
教師計三七一人が一堂に会する年  
に一度のビッグイベントです。こ  
の日は子どもたちが主役です。大  
人は準備から本番まで脇役に徹し  
て会を盛り上げます。

まずは入場行進です。各学校の  
プラカードを先頭に子どもたちが  
胸を張って堂々と行進をしまし  
なしの一発勝負です  
が、見る者を感動さ  
せてくれました。甲  
山中の深田君の元氣  
な選手宣誓、歌、そ  
していよいよ演技の  
開始です。第一回は

### プログラム

- 1、いつでもだれかが
- 2、まわれシャッチーくん
- 3、はやくちょうだい
- 4、宅急便です
- 5、グランパスをすくえ!
- 6、輪らって帰ろう
- 7、おみやげもらおう
- 8、徒競走
- 9、かもつれっしゅっば(全員)

準備体操です。ダンスを取り入れ  
た軽快な体操に、会場のあちこち  
から楽しそうな笑いがこぼれまし  
た。玉入れにはかごを背負った四  
人のシャッチーくんが登場。動き  
回るシャッチーくんの背中のかご  
は、見る見るうちにいっぱいにな  
りました。小学生低学年の徒競走  
はテレビアニメのヒーローに向か  
ってダッシュ。手に持った食べ物  
を食べさせてあげます。高学年は前

### おうちの声

根石小 植田聡子

競技はやる気になってくれるか  
しら。ものめずらしい小道具にひ  
かれて、飛び出して行きはしない  
かしら。お弁当が待てるかしら。  
帰りたいとぐずりだしたら・・・  
よくも心配の種ばかりひっぱり  
だせるとあきれれるほど。「お母さ  
ん、おちつきなさい」と、とりあ  
えず自分にむかっておまじない。  
始まれば、堂々たる行進ぶり。わ  
が子のよき姿にたちどころに消え  
るおろおろ心。このあたり、あほ  
らしくらい母心のましめな軌跡。  
ようやく、まわりのほうに目を  
むける気持ちも整ってみれば、先  
生方のゆったりとしたいいお顔か  
いっばい。競技中の子供たちの表  
情もいい。手だし、口だし、運び  
具合に、子供を知る人ならではの  
思いが光る。できた、やったね、  
親子一緒ににっこり。まわりがにっ  
こり、ひとつ余分に母にっこり。

企画に当たられた方々の、心く  
だきはいかばかりか。練り上げら  
れた内容に、早くも来年が楽しみ。  
「お母さん、いいですよ」をく  
れた先生、ありがとう。また、こ  
の会場でおあいしましょう。



まわれシャッチーくん



宅急便です



はやくちょうだい

# 療育手帳について

## 愛知県岡崎児童相談所

で、各種の福祉施策がスムーズに受けられるようになります。(なお、一部の福祉施策については、別途の手続きが必要であったり、療育手帳の交付が必要となっていないものがあります。)

療育手帳は、保護者又は本人の申請によって交付されるもので、知的発達障害のある方が必ず受けなければいけないという制度ではありません。

療育手帳の障害の程度の区分(判定区分と言います)は、A(重度)、B(中度)、C(軽度)の3段階あり、その方の知的発達障害の程度に応じて決められます。窓口は市役所障害援護課です。

療育手帳の判定には数年の有効期限(「次の判定年月」として手帳に記載される)が定められており、その時期には再び判定を受けていただく必要があります。

福祉施策は判定区分によって異なりますが、税の控除、各種の手当、JR等の交通運賃の割引等があり、また、会社に就職する時にメリットがあることがあります。

岡崎市に住んでいる方については、判定と交付を担当するのは愛知県岡崎児童相談所(18歳未満)又は愛知県心身障害者更生相談所(18歳以上)で、交付申請の受付窓口は市役所障害援護課です。

障害者(児)に関する手帳の制度は身体障害者手帳が一般によく知られていますが、知的発達障害のある者(児)(法律上の用語としては精神薄弱者(児))を対象としている手帳制度が、「療育手帳制度」です。

知的発達障害のある方は、療育手帳の交付を受けていただくこと

## ライオンズクラブ招待

### 社会見学

#### 南知多ビーチランド

十月十八日に、岡崎ライオンズクラブの招待で、市内百五名の児童が五台のバスで、南知多ビーチランドへ社会見学に行きました。

十王公園での結団式で、矢作北小学校の庵正敏君が、お礼の言葉を大きな声で立派に言ってくれました。また、保護者の代

表として、緑丘小学校の甲斐様からも、丁寧なお礼の言葉がありました。

南知多ビーチランドでは、ラッコが大きな貝を食べるところを見たり、イルカとボール遊びをしたりすることもできました。

お弁当は、イルカ・アシカショーを見ながら食べました。

大きなアシカが、高い所のポールにタッチするショーがありました。前列で見えていたお友達は何度も水しぶきがかかってしま

間にも帰る時間が来ました。

おみやげに、かわいい絵のつ

いたウエ

ストボー

チも頂き

すてきな

一日でし

た。

絵  
連尺小  
四年  
松田恵資



## がんばってます(5)

### 岩津化成

本田みちのさん  
塩賀 美和さん

私たち二人は、新香山中学校の同級生でした。中学校を卒業後、一人は、春日台訓練校を一年経てこの岩津化成へ就職しました。もう一人は、豊田高等養護学校を卒業して、同じ会社へ就職しました。

中学生の時に、仲が良かったので、「卒業後も、同じ学校か、職場になれたらいいね」などと話していたのが、その念願がかなったというわけです。

勤務中は、別々の機械について作業しておりますが、昼食時には一緒に話したりできます。

辛いことがなかったと言えませんが、お互いお互いに励まして頑張っています。

九月二十九日、矢北小・矢東小の児童を招いて、さつまいもの収穫祭を行った。

「今から収穫祭を始めます。」

緊張しかったN君の声が農園に響いた後、中学生たちは、小学生たちがさつまいもを掘れないでい

かりで作ったさつまいも汁と、焼きいもをみんなに食べてもらったりした。

司会を最後までやりきったN君の顔には、満足そうな表情が浮かんでいた。

## 学級スナップ

### さつまいもの収穫祭

矢北中 十一組



# 特殊教育の道へ

矢作中

鈴木 忍

## 障害児との出会い

教職について、はじめて障害児

を受けもったのは、新卒から三年目の昭和四十四年のことでした。

大樹寺で三年生、四年生ともち上がり、五年生をもった時の普通学級にY子さんがいたのです。彼女は幼少時の熱病で脳に障害を負い

知的にも生活面でもハンディキャップをもっていました。学習効果も

あがらず、予防注射と聞くだけで泣き叫ぶ彼女を目の前にして、正直いってなすすべがありませんでした。自分なりにいろいろやってみましたが、限界を感じ、特殊教育で彼女を育てるよう、両親と

相談しました。しかし、特殊学級は、市内でも梅園小をはじめとして五、六校しかありません。特殊教育の充実が叫ばれてはいたもの

の、まだまだ一般的には関心も薄く、色眼鏡で見られていた時代でした。それでもご両親は、彼女の将来のことを考え、特別な教育を与えることに同意され、もともと近い広幡小へ転校することになりました。担任は志賀忍先生で、先進的な指導をしておられました。

その後、彼女は城北中へ進み菟田先生や柴田先生（現豊田養護長）の適切なご指導を受け、十分力を伸ばすことができました。現在では、両親のサポートはあるものの立派に一人の母親として家庭生活を営むまでになってい

ます。彼女がそのまま普通学級の中で過ごしていたら、どのような人生を歩んでいたのか。たぶん、今のような生活上のスキルは育っていなかったのではと思います。

しかし、彼女を卒業までお世話せず、一年間だけで他校へお願いしたことは、その後ずっと心のすみに残っていました。彼女との別れが、後に特殊教育へ進むこと

になる一因でもありました。

## 特殊学級の担任に

特殊学級を受けもつよう強く奨

めて下さったのが、特殊の指導員として連尺小で実践を重ねておられた大山康央先生でした。ある会

に同席したおり、先生からさまざまに、特殊教育の大切さ、面白さを教えていただき、不安ながらも、

自分もやってみようかなと決心しました。美川中への転勤を機に精薄学級を受けもつことになりました。暗中模索の中で指針として仰いでいた

大山先生が、細川小へ教頭として栄進されてすぐお亡

くなりになったことは、自分自身のみならず、岡崎の特殊教育にとつて、大きな大きな痛手でした。

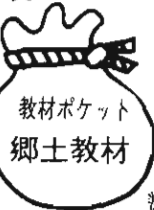
美川中では、作業学習を大幅にとり入れてやりました。学校での夏休み中の合宿も、特別に石川校長先生に認めていただき「生活の中で育てる」を目標に実践しました。

た。

別れが、後に特殊教育へ進むこと



自分もやってみようかなと決心しました。美川中への転勤を機に精薄学級を受けもつことになりました。暗中模索の中で指針として仰いでいた大山先生が、細川小へ教頭として栄進されてすぐお亡くなりになったことは、自分自身のみならず、岡崎の特殊教育にとつて、大きな大きな痛手でした。美川中では、作業学習を大幅にとり入れてやりました。学校での夏休み中の合宿も、特別に石川校長先生に認めていただき「生活の中で育てる」を目標に実践しました。



郷土と共に

歩む

矢北小

本多末子

「太田おばあさん、人形劇を見に来てください。」と子ども達の元気な声。これは、『触越のきつねの孫三郎』の昔話をしてくださった学区の古老へお礼に出かけた時の一コマである。

本校の研究『郷土の人・事物に学ぶ』という硬いテーマに沿うべく努力の七年間。人を含めた生活環境全てを郷土と据え、そのかわりの中で子ども達の個々の能力の向上を願ってきた。矢作川でのつり名人を招いて

共

共に成長をと望んでいる。



## 自主研修(宿泊)

十月二十七・八日に、宿泊自主研修会が、三教研の岡崎会場、思

いの地、桑谷山荘で開かれました。伊沢、林両元部長先生のご参

加で、「温故知新」をテーマに第一日は懇親会、二日目は研修会

という内容の会になりました。

当日は、「おかざきっ子展」の搬入日と重なり、多忙の先生方にもかわらず、延べ五十名あまり

は「毎

年開催して

は」という声も寄せられました。

の方の参加をいただきました。神戸からの参加もあり、懐かしい顔を拝見しながら、旧交を温め、なごやかに会は進みました。

二日目の研修では、シヨブラーの進める教育プログラムのテレビ視聴から、自閉症児への教育的アプローチのヒントを得たり、個別教育計画のための新しい知能検査

K-ABCの紹介がありました。

会員の方から、「毎年開催して

は」という声も寄せられました。

は」という声も寄せられました。

は」という声も寄せられました。